

平成30年 9月14日

非血縁者間骨髄採取認定施設
採 取 責 任 医 師
輸 血 責 任 医 師
麻 酔 責 任 医 師 各 位

公益財団法人 日本骨髄バンク
ドナー安全委員会

自己血の取扱いについて（通知）

拝啓

時下、ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素より骨髄バンク事業の推進に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたび非血縁者間骨髄採取時に骨髄提供者に対して術中に返血すべき自己血が返血されずに術後病棟保管庫に移動され、誤って冷凍庫に保管されたため、使用不可となった事例が報告されました。

つきましては、別紙内容についてご確認の上、「自己血の取扱い」についてご対応くださいますようお願い申し上げます。

今後とも骨髄バンク事業の推進にご協力の程お願い申し上げます。

敬具

「自己血の取扱い」に関する本委員会の見解

■再発防止について：

非血縁者間骨髄採取術における自己血輸血においては、以下の点に留意して頂きたい。

- ① 非血縁者間骨髄提供者の速やかな社会復帰を考慮した自己血採血・返血は、採取責任医師及び輸血責任医師の責任下で、確実に採血・返血されるよう麻酔科医師と意志疎通を図ること。
- ② 骨髄採取が始まれば、自己血の輸血を開始する（骨髄採取マニュアル P9）。
- ③ 骨髄採取術施行にあたり、タイムアウト時には必ず自己血返血開始のタイミング・自己血貯血量・自己血返血量をスタッフ全員で確認すること。

④ 採血した自己血は、自己血輸血：採血及び保管管理マニュアル（厚生省薬務局）に従い、保管は輸血部門の自己血専用保冷庫に限定し、病棟などでは保管しない（骨髄採取マニュアル P48）。

⑤ 病棟や手術室などには実際に使用するまで持ち出さないことが原則であり、持ち出した後はできるだけ早く使用する（骨髄採取マニュアル P49）が、もしすぐに使用できない場合は、再度自己血専用保冷庫で保管する。

以上

採取施設からの報告

■ 自己血を凍結したため使用できなかった事例

事象	骨髄採取後、ICU に入室、手術室から持ち込まれた自己血 1 パック目（400ml）を輸注開始し、残りの 1 パック（400ml）は保管庫保存とした。30 分後、他の看護師が保管してある自己血を保管庫に確認しに行ったところ、冷凍庫に自己血が保管されているのを発見する。自己血は凍結しておらず、外観上は問題なかったが、かなり冷やされていた状態で、念のためパイロットチューブを遠心して確認したところ、一部溶血を確認。冷凍庫保管されていた 2 パック目（400ml）の自己血は使用せず破棄とした。ドナー血圧低下等なく、経過観察とした。
原因・要因	・本来、使用直前に輸血室から払い出される自己血が、払い出し後、使用するまでに時間を要し、骨髄採取が終了してしまい、ICU に自己血を持ち込むことになってしまった。 ・冷凍庫と冷蔵庫の場所が近接しており、看護師は自己血を冷蔵庫に入れるつもりが、誤って冷凍庫に入れてしまった。
対策・改善措置	・原則通り、自己血は使用する直前まで輸血室で保管し、使用直前に払い出す事を徹底する。

■ 本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人 日本骨髄バンク
ドナーコーディネート部 折原・杉村
TEL：03-5280-2200 FAX：03-5283-5629